

オリフルア・トートリルア・ピーチフルア・ピリマルア剤 コンフューザー MM	取扱メーカー： サンケイ、信越化学 原体メーカー： 信越化学
成分： (Z)-8- ドデセニル＝アセタート……………21.1% (Z)-9- テトラデセニル＝アセタート……………2.7% (Z)-11- テトラデセニル＝アセタート……………13.5% (Z)-13- イコセン-10- オン……………17.9% 14- メチル-1- オクタデセン……………31.3% 10- メチル-ドデシル＝アセタート……………0.36% (Z)-11- テトラデセン-1- オール……………0.19% (Z)-9- ドデセニル＝アセタート……………0.71% 11- ドデセニル＝アセタート……………0.36%	性状： 淡黄色澄明油状液体 毒性： 普通物 消防法： 第4類・第3石油類（非水溶性）・危険等級III

【品目特性】……………

- 性フェロモンの特異的作用によって対象害虫の交尾を連続的に阻害する。
- 害虫が交尾する際に体外に放出する性フェロモンを用い、交信攪乱を引き起こすことにより交尾行動を阻害し、害虫の発生を抑制する。
- 成分の入ったディスペンサーは枝などに簡単に取り付けられる。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

- 3 ha 以上のまとまった圃場で設置することが好ましい。

- 成分は空気よりも比重が重いので、なるべく上部に設置する。
- 斜面地の圃場では効果が十分に発揮されない場合があるので、なるべく平らな圃場に設置することが好ましい。

【薬効・薬害等の注意】……………

- 急傾斜地、風の強い地帯など本剤の濃度を維持するのが困難な地域では、効果が安定しないので使用しない。
- 外装のアルミ箔袋を開封したまま放置すると有効成分が揮散するので、必ず使用直前に開封し、なるべく使いきる。やむを得ず残った場合には密封し、5℃以下で冷蔵保管する。
- 共通注意事項8、適用作物群に関する注意事項を参照。

【適用と使用法】……………

作物名	使用目的	適用害虫名	10 a 当り使用量	使用時期	使用方法
果樹類	交尾阻害	ナシヒメシンクイ リングコカクモンハマキ モモハモグリガ モモシンクイガ	100 本～120 本 (55g/100 本製剤)	成虫発生初期から終期	ディスペンサーを対象作物の枝に挟み込み、又は巻き付け設置する。
		チャノコカクモンハマキ	120 本 (55g/100 本製剤)		